

1999年1月22日

経済学部教授 高島 均

春休みに薦める本

大学に入って1年間の勉強が終わり、大学とはどのようなところかおぼろげながら判ってきた事と思います。いよいよ本格的な大学生活が始まります。それに先だって、春休みに、何点かの本を薦めます。

1. “ 規制緩和は悪夢ですか ” 三輪芳朗著，東洋経済新報社（本体1700円＋税）
2. “ 地球環境政策 ” エルンスト・U・フォン・ワイツゼッカー著，宮本憲一・楠田貢典・佐々木健監訳、有斐閣（本体3200円＋税）
3. “ アメリカ精神の源 ” ハロラン芙美子著，中公新書（本体900円＋税）

“ 規制緩和は悪夢ですか ” は、東大教授である筆者が、行政改革委員会規制緩和小委員会メンバーとしての活動の中で、実際に出会った経験をもとに、「規制緩和すればいいというものではない」という一見同意してしまいそうな主張の危険性を明らかにし、今何が個人に求められているのかを、社会の変革を求める情熱を持って書き上げたものです。

“ 地球環境政策 ” は、リオ地球サミットにドイツ政府代表として参加したノルトライン・ヴェストファーレン州科学センター所属ヴァッバートル気候・環境・エネルギー問題研究所長の21世紀にむけた経済政策論です。経済学は、「豊かさ」を実現するための社会科学・政策学ですが、経済学で豊かさの第1近似として用いているGDPは、「豊かさ」の指標としては大きな欠陥がある事をマクロ経済学の授業の中で皆さんは勉強したと思います。筆者は、「地球次元の正義」に基づいて、伝統的な経済学が無視してきた「地球」というストック制約を考察する中から、「南」の国々の人々にも「北」の国々の人々にも受け入れられる「豊かさ」を追求し、そのための方策を提示しています。かつて石油ショックが日本を襲った時、「省エネ」が流行語となりましたが、石油ショックによる経済的打撃を克服するや否や、「喉もと過ぎれば何とやら」というように、何時の間にか、私たちの生活のよってたつ地球が、再生産不能な資源である事が忘れ去られてしまいました。長い不況からの脱出を求めて、短絡的な政策が正当性を主張しようとしている今、この著作は極めて有意義な示唆を与えるものと思います。

“アメリカ精神の源”は、コロンビア大学で国際関係論の修士号を取得した後長くアメリカで活躍してきた筆者が、アメリカ人の意識の根底にある世界を、アメリカ社会の多様な宗教生活の分析を通じて探ったものです。アメリカこそは、「豊かさ」の象徴として世界の人々に羨望をもって眺められる一方、わずか100年程の歴史しかない、文化的伝統に欠けた国として蔑視される国です。また、多くの犯罪にあふれる病んだ国といわれる一方、「世界の正義の代理人」として多くの国々に「正義」（必ずしも全てが同意できるものではありませんが）の実現を、時には武力を行使しながら要求する国でもあります。この一見、矛盾するようなアメリカを、筆者の経験をもとにしたアメリカ人の宗教生活の分析を通じて理解しようとするこの著作は、アメリカが好きな人にも、嫌いな人にも、一読する価値があると同時に、世界で最も宗教的な国民の一つといわれている日本人の非宗教的な精神構造を省み、また、自己の生き方を省みる良い機会となると思います。